

## 令和3年度まちづくり座談会における質問・要望事項と回答

■十王地区：12月13日（月）午後7時～8時30分 参加者数35名  
（うち16人町職員）

白鷹町過疎地域持続的発展計画とこれからのまちづくり

### 《質疑応答》

- Q. 産業振興ということで、前々から企業斡旋している中、今回花菱が1/20に撤退する。これからどういう方法で産業振興を進めていくのか。
- A. （商工観光課長）本町では、鮎貝の大町裏に工業用地を設定して誘致を図ってきたが、紆余曲折あり、町内企業の施設が建っている状況。過疎計画の中でもソフト事業ということで、今までも起債を企業立地の促進のために使い、事業推進してきたところではあるが、町内進出、または町内起業し、創業した方々への設備投資、施設の増設をお手伝いしてきた。雇用が図られるということを目的として支援し、現在まで進めてきた。今まではオーダーメイドのような形で、企業と相談しながら進めてきたが、第6次総合計画、それから過疎地域持続的発展計画の中では、ある程度工業用地を設定して進めていきたいと検討している。2010年の国勢調査の就業人口を見ると、7000人ほどで、4割が町外、6割が町内で働いている。その中でこういった業種の企業を誘致すればいいのか、難しい問題。ハローワークの有効求人倍率をみると、長井管内で1.43倍。職はあるが就業者が少ない。こういった状況を踏まえて、誘致に取り組まなければならない。今までのように、地方は安い労働力で創業できる企業を誘致するというような話ではない。業種等をよく見極めて、いかにして町民の方々が働ける場を創出できるかを慎重に考えていかなければならないと考えている。
- Q. 毎年のように鳥獣の被害が出ているが、どのように対策し、防止していくのか教えていただきたい。
- A. （農林課長）鳥獣被害対策として、現在取り組んでいるものとしては、田畑を守る電気柵の設置にかかる費用の支援を行っている。県の補助事業や、町独自の事業もあるが、県の事業を活用すると2分の1の補助、町の事業だと3分の1の補助を実施している。基本的に販売農家の方々向けに行っていた支援事業になるが、2年前から自家用菜園の方にも、上限は1万円だが支援を行っている。鳥獣被害防止対策自治体、いわゆる猟友会の方々と協力しながら、罾の設置、駆除というような部分も根気強く取り組んでいる。ただ、増えるスピードの方が速く、なかなか減らないといった課題もある。山から人里に降りてこないようにするためには、ここから先は人の住むところだと区別ができるようにする必要があり、様々な機会を通じて、草刈りなどの呼び

かけを行っている。クマになると、採り残しの柿などを食べに来る可能性があるの  
で、採り残さないようにする、残飯などは放置しないようにするなどの呼びかけを、  
町報を通じて行っている。ただ、なかなか野生の動物なので、コントロールできずに  
苦労しているということをご理解いただきたい。

- Q. NHK のテレビで、鳥取県の大谷さんという方が、コンパクトな林業の推進というこ  
とで自伐型林業の取り組みをされている。そこは小型の重機を使用しながらやっ  
ているということで、白鷹町は、西山は傾斜が急で、東は緩やかということもあるが、そ  
ういった取り組みと、高知県の佐川町で行っている自伐型林業を学ぶ研修制度を取り  
入れられないか。研修を行った結果、若者の林業従事者が増え、小さい子供と一緒に  
移住してきているとのこと。雑木の成長が止まり、吸収が鈍っている。民有地にはな  
ると思うが、早い段階で植林する必要があると考えている。2年前に行ったとき、黒  
鴨の上の方に雑木が多く、植林できない状況。まちづくり複合施設建設のため杉の木  
を切ったところも、5~20年経つと、腐れて土砂災害の原因になるといわれている。  
実淵川の上流に位置しているので、エネルギーと水と食料という観点からも何かしら  
の政策をしていただけると良いかと。土地の所有者など、植林をしたいけどできない  
というハードルがあるのか状況をお聞かせ願いたい。
- A. (農林課長) 本町では森林関係の再生に向けて、「森林(もり)とつながるくらしビジョ  
ン」という、総合的な計画づくりを進めている。最終的に今ある木はすべて有効活用  
し、空いた土地に再造林し、しっかり植林を進めていくことを念頭にビジョンづく  
りを行っている。自伐型林業という話もあったが、木を切っていくに収益を上げ、50年  
後の世代に向けた再造林につなげていくという、持続的なつながりになるように進  
めている。再造林支援事業ということで、町でも再造林の補助事業を行っている。それ  
をしていくにも、しっかりと計画が必要になるので、個別に相談させていただき  
ながら、取組を始めたばかりなので、皆様から協力をいただきながら進めてい  
きたいと思っている。緑の循環構想を進めるべく、そこを最重要課題ととらえてい  
る。黒鴨については、鮎貝自彊会の土地になっているが、細部に進めていけるよ  
うに協議を進めている。

(町長) 自彊会の方は境界がはっきりしているためすぐに取り組める。緑環境税とい  
うものがあり、それをうまく活用して、切って使って植えるという一つの構想を、自  
彊会は進めている。切ったところから植えていくというやり方をさせていただいて  
いる。エネルギー面では、化石燃料をできるだけ減らし、端材などをうまく活用してエ  
ネルギーに変えていきたいと考えている。ただ、これは町だけではできない。民間の  
方の協力が必要。経営的に合うか合わないかはあると思うので、緑の循環だから良い  
ということではないが、白鷹中学校のプールも、寒くて使えない時期があるため、屋  
根をかけて端材による熱エネルギーで温めることもできるかと。木材については、東

京の大きな会社から引き合いが来ている。そこといろいろ手を組みながら、町内の山を使わせていただいて、植林の繰り返しをしていくことによって、ゼロカーボンの一助になればいいと取り組みをさせていただいている。また、直接山に行かなくても現地で測るのと同じ効力があるレーザー航測などの最新技術も取り入れながら、できるだけ地権者に迷惑をかけないよう境界の明確化を進めている。ウッドショックが落ち着いたとしても、せつかく 50 年から 70 年も頑張ってきた杉の木の価値が、0 やマイナスにならないよう、何とかこちらの方で頑張っていきたいと思うので、ご協力よろしくお願ひしたい。

その他 地区の抱えている課題や、町への要望など

《質疑応答》

Q. 六叉路の改善をぜひとも速めていただきたい。青写真が出来上がらないとそれに付随したものも見えてこないというのはわかる。六叉路の問題解決に向けて力を貸していただきたい。

併せて通学路の問題。1 町内 2 町内合同で道免喜街道にカラーラインを引いて歩道の区分けをしてほしいという提案をした。十王は通学路が長く道幅が狭いのに、歩道が少ない。子育てしやすい環境をつくるためにも早期に改善していただきたい。

十王は新興住宅で、上野などで人口が増えてはいるが、頭打ちになるのは目に見えている。外から来てもらうには、子育てしやすい環境を整えなければならない。私個人はベッドタウンでも構わないと思っているが、子供たちが安心して遊んだり勉強できたりする環境があればどこからでも来てくれるのではないかと考えている。

私が勤めている会社では、会社として従業員の健康を守るために、身銭を切って健康診断や予防接種を受けさせ、従業員を増やすという健康経営をしている。こんなことをしていかないと従業員は増えないということを考えていただきたい。どんなに素晴らしいビジョンがあっても、実行する過程が分からず、はっきりと現実化してこないとな誰も納得してくれないと思う。

A. (建設課長) 六叉路については、交通事故を誘発しやすい交差点だということは認識している。前々年、交通量調査もさせていただいている。その結果と、地元の皆様のお考えや案等ご指導いただければ、お互いの理解のもと、住みやすい道路の計画を考えていきたいと思うので、その際はよろしくお願ひしたい。

カラーラインについては、ドライバーが認識しやすいような、おそらく緑のラインだと思うが、子どもの安全のためにも、出来るだけ早く対応できるよう検討したいと思っている。

(商工観光課長) 御社は健康経営の素晴らしい取り組みを行っている。町内の企業は、従業員の健康を守るため、様々取り組みを実施しているということは認識しているが、小規模の企業への支援もしていかなければならないと考えている。

（健康福祉課長）町の健康づくりという視点でお話しさせていただく。基本的な健康診査については、それぞれの医療保険者で担うことになっており、それぞれ雇用されている方の健康診断を行っている。がん検診は町で実施しており、同日検診に合わせたがん検診に、ぜひおいでいただきたいということで町内の企業にもご案内差し上げている。今後、医療保険者単位の検診情報を一元化し、町の健康づくりを考えていけるような環境も徐々にできる予定なので、町の皆様の健康を守るという視点からも、様々な健康づくりへのアプローチを考えていく。